

令和8年10月13日

室蘭市長 青山剛様

室蘭市副市長 奈良信一様

室蘭市副市長 稲葉一考様

室蘭市議会議長 柏木隆寿様

室蘭市議会副議長 南川達彦様

ならびに議員各位

一般社団法人むろらん100年建造物保存活用会

代表理事（及び一市民として） 村田 正望

連絡先：090-9523-3073、murata@muroran100.com

「防災局を柱とする室蘭強靱化計画案」の提出について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より、当会の活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当会は、旧絵鞆小学校円形校舎の西棟（体育館棟）の保存を進める一方、文化センター大ホールに関しては、存続を求める署名を行いました。いずれも文化的価値の存続に関するものです。

そこで、この二つの建物の有効活用を出発点に、昨今の国の政策的な動きを踏まえた計画案を作成いたしました。津波と火山に備える避難拠点、国の防災機能の受入れ、大学との連携を一つにまとめた計画案です。本計画案は、防災庁の地方機関「防災局」を室蘭工業大学に誘致することを柱として、次の四つを提言しています。当会からの提案であると同時に、一市民としての提案でもあります。ここに提出いたします。

- ・ 防災局を室蘭工業大学に誘致すること
- ・ 文化センターを、移行期の防災拠点として存続させること
- ・ 旧絵鞆小学校の2棟を耐震化し、津波避難施設とすること
- ・ 入江に一次避難ビルを、工大に複合拠点を整備すること

あわせて、白鳥新道2期と港湾・輸送路の強靱化は、防災局とは切り離し、令和9年度予算から国に要望することを提案しています。

とりわけ、次の2点は時期が重要です。

1. 2026年11月2日の防災庁の発足に合わせた、防災局候補地としての意思表示
2. 文化センター大ホールの解体時期と活用方法の判断（解体は不可逆であり、閉館の2026年度末より前に、第一案・第二案のいずれで進めるかのご判断が必要です）

なお、旧絵鞆小学校の西棟は当会の所有です。このため、買い戻しに関する提言には提出者の利害が含まれます。本文では利害関係を明示したうえで、買い戻しの要否は代替案との比較により、価格と条件は第三者の評価に基づいて市が判断されるべきものとしています。

数値は公表資料および報道に基づく概算です。市がお持ちの資料でなければ確認できない事項は、本文16章にまとめました。

防災局の誘致については、市におかれても、すでにご検討を進めておられる可能性があるとは承知しております。その場合は、本計画案を、市の検討を補う一つの案としてご活用いただければ幸いです。

国は、2027年度を「責任ある積極財政元年」と位置づけ、単年度ではなく複数年度で事業を進める方針を示しています。各閣僚に対しても、来年度予算に向けた指示が出されていると承知しており、防災庁も11月2日に発足します。こうした動きが重なる今は、本市にとって千載一遇の機会であると考えます。病院の閉院処理という厳しい局面にあるからこそ、国の施策と財源を生かし、文化センター、旧絵鞆小、入江、工大を一つの構想で結び、まちの再編と未来へのプロジェクトとして、積極的にご検討いただくことを期待しております。

ご高覧のうえ、ご検討くださいますよう、お願い申し上げます。

敬具

記

添付資料

1. 防災局を柱とする室蘭強靱化計画案（本文）
2. 同【概要版】（A4・2ページ）

写しの送付先

室蘭工業大学学長・副学長／室蘭商工会議所会頭／北海道胆振総合振興局長／国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部長

以上